

にしっこ 西っ子のみなさんへ 6

4月24日

前回、「地球の日」のことを書きましたが、世界中の天文学者は、「第二の地球」地球によく似た星がないか探しています。最近、大きさや当たる光の量がよく似た星がいくつか見つっています。果たして、その星に生命は誕生しているのでしょうか。

ところで、夜空を見上げるといっぱい星を見ることができます。しかし、夜空の輝く星のほとんどは、「太陽」と同じような、高温で自ら光を出す「恒星」という星になります。

地球のような固い地面がある星ではありません。

夜空に輝く多くの星の中で、地球と同じ仲間の星（惑星）は、「火星」「水星」「木星」「金星」

「土星」のたった5つしかありません。あとはみんな、「太陽」の仲間なのです。

星を観察するのに、望遠鏡を使いますが、巨大望遠鏡を使っても、先の5つの星と「月」

「太陽」しか、その星の表面の様子を観察することはできません。あとの星は、あまりに遠くにあるので、輝く「点」にしか見ることができません。

この世の中で、一番速いのは、「光」です。1秒間で約30万km進みます。私たちの「太陽」もけっこう遠くにあるため、太陽を出発した光が、地球に届くのに約500秒（8分20秒）かかります。例えば、今この瞬間に太陽が無くなっても、あと8分20秒間は、あるように見えるわけです。夜空に輝く星は、光でも何千年、何万年、何億年もかかるほど遠くにあるものがほとんどです。つまり、何千年、何万年、何億年も前にその星を出発した光を今私たちは見ていることになり、夜空を見ることが、宇宙の「過去＝昔の姿」を見ることになります。なんていうことを考えながら夜空を見上げると、一味違った星空になりませんか！

高い山に登って、夜空を見上げると、ビックリするほどの数の星を見ることができます。こんなに星ってあるの？と思うほどです。一度は、そんな星空を見てほしいと思います。（人が多く住んでいるところは、夜



でも町の光がたくさんあるので暗い星は見ることはできません。高い山だと、空気が澄んでいて、町の光は届きませんので、暗い星も見ることができるからです。） 校長より

